

# 国際学会に参加して

機械知能工学専攻H25 田中 修司



## 学会参加にあたって

2013年11月13日～16日に韓国のPai Chai Universityで開催された'ISIS (The 14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems)'に参加しました。開催地である大田は韓国第5の都市であり、近年急速に発展を遂げている韓国を象徴するかのように、高層ビルが立ち並び経済成長を身近に感じる部分が多くあり、また中心街のアーケードの天井には液晶が設置しており、韓国の高い技術力を感じる事ができました。

今回の国際学会では、自分の研究を口頭で発表しました。私の研究は、2つの異なる時間に撮影されたCT

画像を差分して得られる経時的差分画像を用い、結節状陰影などの病変部をCT画像から検出するため、濃度特徴量や形状特徴量を用いた識別器を構築しました。最終的には、得られる識別結果を、医者に提示できるComputer Aided Diagnosis (CAD) Systemの開発が目的です。本開発システムにより、病変の早期発見・早期治療が可能となり、受診者である国民のQOLの向上に貢献できると思っています。



大田広域市の中心街のアーケード

## 学会参加を通じて

今回の国際学会への参加を通じて、英語力とコミュニケーション力の必要性を実感しました。当然ですが、国際学会であるため発表資料も発表原稿もすべて英語で作成します。私の場合、指導教員の先生や研究室の留学生の方に論文の添削を何度もしてもらいました。そのため多くの時間が必要となり、この時間を減らす意味でも英語力の向上が必須だと感じました。また、発表時の質問で、自分の回答が相手に伝わるかどうか不安でした。しかし、自分の伝えたいことを手探りながらも一所懸命に回答したら、相手も私の言わんとすることを理解してくれようとしていたことがわかり、諦めず伝えること



発表の様子

の大切さを実感しました。

学会の最後の表彰では「Best Presentation Award」を受賞することができました。自分の名前が呼ばれたときには今回の学会に向けての苦勞が報われた気持ちになりました。

## 食事会

学会終了後、関連分野の多くの先生方や他大学の学生の皆さんと食事がありました。そこでは、韓国の伝統的なパルチマ料理であるブルコギがだされました。韓国料理は辛というイメージがありましたが、このブルコギはあまり辛くなく、日本のすき焼きに近く、日本人にも馴染み易い料理という印象を受けました。また、ともに食事をした、他大学の学生らと話すこともでき、充実した時間を過ごすことができました。

## 謝辞

今回の国際学会参加にあたり、経済面で奨学金を援助していただいた明専会、論文執筆およびプレゼンテーション資料に関してご指導いただいた金亨燮教授に厚く御礼申し上げます。

※平成25年12月記